

特集／タイヤ整備作業現場の「働き方改革」に向けて



自動車業界で現在、非常に深刻化している問題が自動車整備士の不足。
「少子化の進展」「クルマ離れの加速」……その理由について、このよくなじみの社会的要因が指摘される。また整備士の仕事が汚い・キツイ・危険といわれる「3K」労働

東洋精器工業(株)からの提案

PCバランスー用タイヤリフト

「BL-02B」

深刻な労働力不足を背景として、「働き方改革」への取り組みが注視されている。生産年齢人口が減少の一途を辿る状況において、労働生産性の向上が労働力不足解消の鍵を握る。労働環境の改善がその第一歩となるに違いない。東洋精器工業㈱が提案する、タイヤ整備の現場ですべし始められる「働き方改革」を紹介する。

軽労化と作業性向上を実現

であるとして「開拓者のことなきなればならない」自動車・整備士を高齢化する若者が激減する」とはそのままタイヤ整備ある構造的な問題点も挙げられている。

一方で、クルマのHV化やEV化、自動運転技術の進展、人工知能（AI）の導入などで自動車の整備技術は高度化がますます進む。このよんなクルマの整備に際して、スキヤンツールなどのテスターで故障を診断することは可能だ。だがその先、すなわち整備や修理は人の手に委ねられる。つまりクルマの先進技術が進化するところで、自動車整備士はこれまで以上に広範囲な知識と高度な技術スキルが求められつつ、しかも

これまで以上に広範囲な知識と高度な技術スキルが必要だ。販売企画部副部長の木村正浩社長は、「機械化による『働き方改革』を提案。省力化、作業の効率化を目指した新製品を開発し積極的に市場に投入している。

今回、同社が上市したP.O.バランサー用タイヤリフト「B-LINE-02B」も、使ってその作業を行う。一方、ホイールバラン

不足は頭著で大きな問題となっている。

では、直面する問題に對しどのように対応を図るべきか。人の手に頼るものが多い現場では機械化や自動化の進展がキーポイントとなる。東洋精器(兵庫県玉置町)は機器の高機能化による「働き方改革」を提案。省力化、作業の効率化を目指したタイヤチエンジニアリングは、新たな形での脱作業化の付いたホイールの付いたタイヤを水平の状態にした上で、それをテープル板に置くため、作業者は両腕を解放する。これまで以上に広範囲な知識と高度な技術スキルが必要だ。販売企画部副部長の木村正浩社長は、「機械化による『働き方改革』を提案。省力化、作業の効率化を目指した新製品を開発し積極的に市場に投入している。

これまで以上に広範囲な知識と高度な技術スキルが必要だ。販売企画部副部長の木村正浩社長は、「機械化による『働き方改革』を提案。省力化、作業の効率化を目指した新製品を開発し積極的に市場に投入している。

これまで以上に広範囲な知識と高度な技術スキルが必要だ。販売企画部副部長の木村正浩社長は、「機械化による『働き方改革』を提案。省力化、作業の効率化を目指した新製品を開発し積極的に市場に投入している。

(写真右)リフト部から照射される十字レーザーライン。
(写真左)ホイールとシャフトのセンター部の位置合わせを可視化した。作業効率と精度向上を実現。

赤色レーザーラインの照射機能を搭載

センタリング位置を可視化



小出哲裕課長(左)と本多茂隆副部長

る。この十字レーザー光の中心はリフトの上昇下降動作に関係なく常にランサー主武装の中ハランサーへ照射されている。心部へ照射され、そのためダイヤ・ホールをフレームに設けた上部をさせていき、十字レーザー光の中心をハフ穴へ心部に位置したところに

ズ防止のためのプロテクターを標準で装備している。一層容易にな
リフト本体部分やユニット部分も構造上質の
アルミニウム合金で作成されており、耐久性と軽量性を実現。

体の最下部に置かれていく。新製品では本格的隕石状態で、それにより、今までの土壌の酸素供給が一層悪くなる。

ホーリールバーンサーへ
のセッティングにタイヤリット
リストを使つてないよだ事。
所はまだ少ないよだ事。
「駱勞作・業性・価格
メリットのトライアングル
訴訟体系で販売展開して
いく」本多さんとし
タイヤリットの「層の普
及促進を図つていく考
え。新製品B-L₀2B
は7月から本格販売を開
始する。

にバランスウェイトを置く。左手側にあるバラ
ンサー上部収納ベースペーストができます」と
うござります」と、本多
さんは説明する。
社本「ページのカタロ
グデータで確認すること
ができる。汎用性を高め
た構造造っていることか
ら同社製ホールバルブ
サンサーはもちろん、主軸
高さの異なる他社製の機
種でもほとんどで使用が
可能だという。なお最大
タイヤ重量は75kg。